



平成 18 年 2 月期 第 1 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 17 年 6 月 30 日

上場会社名 株式会社 ダン (コード番号：2668 大証第 2 部)
 (URL <http://www.dansox.co.jp/>)
 問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 越智 直正 TEL：(06) 6708-2456
 責任者役職・氏名 取締役財務部長 谷川 繁

1 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 影響額が僅少なものにつき、一部簡便的な手続きを用いております。
- ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2 平成 18 年 2 月期第 1 四半期財務・業績の概況（平成 17 年 3 月 1 日 ～ 平成 17 年 5 月 31 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況 (記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18 年 2 月期第 1 四半期	2,249	(1.0)	163 (△18.5)		176 (△16.9)		85 (△24.0)	
17 年 2 月期第 1 四半期	2,227	(—)	200 (—)		212 (—)		112 (—)	
(参考)17 年 2 月期	8,580		366		514		216	

	1 株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
18 年 2 月期第 1 四半期	12	88	—	—
17 年 2 月期第 1 四半期	16	94	—	—
(参考)17 年 2 月期	31	51	—	—

(注) 1. 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

2. 前第 1 四半期より四半期業績の開示を行っているため、前第 1 四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

① 当第 1 四半期における業績

当第 1 四半期の靴下業界におきましては、中国を始めとする海外からの輸入品比率が高まる一方で、国内大手メーカーが生産拠点を海外へシフトしており、加えて国内生産関連産業（染色業、加工業等）の縮小化が進行し、国内生産数量の減少傾向が続いております。販売状況においては、海外からの低価格商品が市場に流入している中で、国内生産による高付加価値商品に対するニーズも高まっており、消費の二極化状態が続いております。

このような状況の中で当グループは、国内生産にこだわり、靴下製造協力工場、糸商、染色工場に至る業務提携パートナーの立て直しに取り組み、世界各国で認知されている日本製靴下の品質を守り続けることに尽力すると共に、靴下の本質的な要素とファッションの変化をバランス良く取り入れ、お客様のニーズに合った商品企画に重点を置いて参りました。また、『靴下屋』を始めとする積極的な新規出店、及び当社ブランドを広く世間一般に浸透させる為のブランド戦略の構築に取り組む一方、海外展開店舗の売上拡大と収益構造の改善に尽力して参りました。

以上の結果、当第 1 四半期の売上高は 2,249 百万円（前年同期比 1.0%増）となりましたが、直営店出店に伴う人件費等の増加により、営業利益は 163 百万円（前年同期比 18.5%減）、経常利益は 176 百万円（前年同期比 16.9%減）、四半期純利益は 85 百万円（前年同期比 24.0%減）となりました。

② 当グループの業績における季節的変動

当グループの売上高は、取扱い商品が防寒という機能を持つ靴下のため、上半期（3月～8月）に比べ下半期（9月～2月）に販売される割合が大きくなっております。従いまして第 1 四半期を含む上半期の売上高と下半期の売上高との間には著しい相違があり、上半期と下半期の業績に季節的変動があります。

また、第 1 四半期（3月～5月）の売上高は、第 2 四半期（6月～8月）と比較して相対的に売上高の水準が高くなる期間であります。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
18年2月期第1四半期	5,308	2,308	43.5	346	32
17年2月期第1四半期	5,333	2,188	41.0	328	24
(参考)17年2月期	5,343	2,294	42.9	343	15

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

当第1四半期の総資産は5,308百万円となり、前連結会計年度末に比べて34百万円減少しております。これは、受取手形及び売掛金が95百万円増加しましたが、現金及び預金が169百万円減少したこと等によるものであります。

また、株主資本については、2,308百万円となり、前連結会計年度末に比べて14百万円増加しております。これは、配当金の支払額で66百万円、役員賞与金の支払額で6百万円ありましたが、四半期純利益で85百万円を計上したことが主な要因であります。

○ 添付資料

- ・ 第1四半期連結貸借対照表
- ・ 第1四半期連結損益計算書
- ・ セグメント情報
- ・ 仕入及び販売の状況

[参考]

平成18年2月期の連結業績予想（平成17年3月1日～平成18年2月28日）

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	3,888	△44	△23
通期	9,491	530	291

(参考) 1株当たり予想当期純利益（通期） 42円23銭

[業績予想に関する定性的情報等]

当第1四半期の業績は、前年実績に対し売上高が+1.0%、経常利益が△16.9%、四半期純利益が△24.0%となりましたが、当グループの業績は下期偏重型であり、秋冬物商戦において計画通りの売上高を確保することにより、目標利益の達成を目指しております。また、売上総利益率については、前年実績を上回る状態で改善されてきており、第2四半期以降もこの推移で改善されていくものと予想しております。

以上により、現状の業績は当初予想の範囲内で推移しているものと考えており、平成17年4月14日の決算発表時の業績予想から変更しておりません。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以上